

介 護

川崎市麻生区の特別養護老人ホーム「金井原苑」。介護職の伊知地大さん(31)が、椅子に腰を下ろし、入所する車椅子の女性(89)に優しく声を掛けた。女性は笑顔を返した。「ここはみんな親切で居心地がいいね」

伊知地さんは金井原苑で働き始めて11年目。フロアの責任者として、食事や入浴などの介助のほか、20人以上いる部下のシフト管理などの事務作業も次々に押し寄せる。心身ともに負担が重いが、急速に進む高齢化社会の懸念材料となっている

人手不足が恒常化

「お年寄りから『ありがとう』と言われると、大きなやりがいを感じる」と話す。

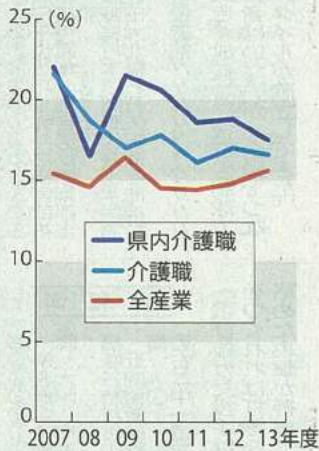
金井原苑の職員数は171人(6月20日現在)で、特養とショートステイを合わせ110床。多忙を極める職員を支えるのが、年間延べ4000人を超える地域住民のボランティアだ。イベント運営からシーツ交換のような通常作業まで幅広く

活躍する。苑長の依田明子さん(58)は「サービスマン維持のためにボランティアの存在が不可欠」と話す。

入居者家族も前向きにとらえる。要介護5の夫、志朗さん(73)が2015年から入所する熊沢美子さん(70)は「川崎市麻生区は『施設には多くのボランティアがいて風通しがいい。安心して夫を預けられる』と語る。

急速に進む高齢化社会の懸念材料となっている

離職率の推移



厚労省の15年の調査によると、介護職の平均月収は21万4000円で全産業平均の30万4000円より約9万円低い。加えて肉体的負担も大きく、離職率も高い。介護労働安定センターの実

職ゼロ」に向けた取り組みで17年度から月収を平均1万円上げることが盛り込まれた。政府は、消費税増税の延期とは関係なく実施する方針だ。対する民進党など野党も介護職員の待遇改善を強調

し、与野党ともに重要課題としている。だが、小規模多機能ホームなどを中心に、低賃金・重労働から脱却しづらい施設も多い。依田さんも「待遇改善はいいが、それだけで離職率は下がらない」と懐疑的だ。

川崎市は14年度から、介護職希望者を対象にした高齢者施設の見学バスツアーを実施している。イメージと実態のギャップを埋めてもらう狙いがあり、評価は前向きだという。介護する側とされる側の双方が幸せになれる仕組みを、いかに作り上げるかが問われている。

【太田圭介】

のが、「介護する人」の確保だ。高齢者の増加に介護職の供給が追いつかず、人手不足が恒常化。厚生労働省の試算では、25年度には最大249万人の介護職が必要とされる。12年度の約149万人から7割近くも増やさねばならず、実現は容易でない。

態調査などによると、介護職員の離職率は、全産業平均より高水準だ。休みの日の会議も出席しなければならぬ施設もある(伊知地さん)など、多くの介護職が悩みを抱えている。

たださえ介護職の賃金は他より低く、若者に魅力的な職場になっていない。

県内の介護職の離職率は全国平均より2割前後高く、人材難はより顕著。県内の75歳以上の人口は、10年の79万4000人から、25年には148万5000人に増えると予想される。待遇改善による人材確保が急務だ。

2016 参院選 かながわ

争点の現場から

3

安倍政権が閣議決定した「二ッポン1億総活躍プラン」には、「介護離職ゼロ」に向けた取り組みで17年度から月収を平均1万円上げることが盛り込まれた。政府は、消費税増税の延期とは関係なく実施する方針だ。対する民進党など野党も介護職員の待遇改善を強調



金井原苑の入所者と言葉を交わす介護職の伊知地大さん(左) 川崎市麻生区で